

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1490600077
法人名	特定非営利活動法人うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
訪問調査日	平成26年1月18日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490600077	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	特定非営利活動法人うえん会			
事業所名	グループホーム銀の鈴2号館			
所在地	(240-0035) 横浜市保土ヶ谷区今井町892-1			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立てて、ご利用者、ご家族、自治会、近隣の皆様、ボランティア、職員が一緒になって楽しいひと時を過ごしている。日常的な外出には社会的リハビリとしての目的を持たせ、いきいきと日常生活を送っていただくための支援として実践している。
- ご家族と、地域の皆様のご協力により地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援に努めている。
- 管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したりホーム内外の研修に励んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年1月18日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ①このホームは、「NPO法人うえん会」の経営です。1つ目の「銀の鈴」とは70～80メートルしか離れておらず、「銀の鈴」の実績を継続し、地域との友好的な関係は継続し、維持されています。管理者の強い意向で1ユニットでのホームとして設立し、今年10月で丸5年が経過します。理念は、「銀の鈴」と同様、「心のケア」の実践に向け、職員の努力、ご家族の協力、訪問の医師、薬剤師の理解を得て、利用者最優先の姿勢でケアを展開しています。利用者は個性はあるものの、職員の適切なサポートにより穏やかな日々を過ごしています。職員に対しては、福利厚生の実践に努め、資格へのチャレンジを勧め、資格手当設定等の配慮もしています。また、利用者のケアのサポートとして、音楽療法の先生に協力を頂いています。ホームは、JR保土ヶ谷駅からバスで20分位のところに位置し、建物は2階建てで1Fが1ユニットのホーム、2Fが多目的室、職員の休憩室が設備され、2Fに繋がった屋上は広いスペースを確保しています。この屋上及び会議室では「銀の鈴」、「銀の鈴2号館」が共同で勉強会、講演会、イベントを行い、利用者、ご家族、ご近所の方、自治会の方々が活用しています。
- ②地域との関係は、非常に良好です。敬老会などの自治会開催のイベントには「銀の鈴」「銀の鈴2号館」からも参加することが自然に行われ、ホームのイベント時には自治会のテント、机等を貸して頂く等、親密な関係が出来ています。東日本大震災を教訓に、備蓄の充実についても再確認し、非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄を行ない、備蓄場所は地域の方の提供場所を含め、数箇所に分散し、定期的に点検を行っています。平成24年に井戸が完成し、非常時の水の確保ができ、浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしており、ライフラインの1つが積み重なった意義は大きいと思います。介護計画等については、評価実績表を中心として、実績表に利用者の観察、日常の課題、本人・ご家族の意向を全て集約し、これを基に介護計画書を作成しています。ホームには、各居室にトイレが設備され、特に夜間の排泄に有効になっています。ご利用者が気兼ねなく、気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立ち、トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に、自立に向けた支援を行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム銀の鈴2号館
ユニット名	

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員として生活できる介護支援」を法人の理念の一つとして掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。管理者と職員はその理念を共有し、実践に繋げることができるようミーティング(計画作成担当者会議)の度に話し合い、振り返ることで日々のサービス提供に反映している。さまざまな行事開催を通して、家族・友人・地域の方々との交流を図っている。	法人の理念の一つに「地域の一員として生活できる介護支援」を掲げ、地域の中で家庭的環境を作り、その人らしく暮らしていることを支えています。また、管理者と職員はミーティングで同じ方向性を確認し、正職員の定着率が高く、「心のケア」実践に向けて、職員の努力、ご家族の協力、訪問の医師、薬剤師の理解を得て、利用者最優先の姿勢で、ケアの展開が出来ています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の方々との交流を図り、双方向の関係を作っている。今井町自治会の主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災教室)には積極的に参加している。ホーム主催の行事には、自治会や近隣の皆様をご招待している。行事に必要な備品・道具を自治会より借りている。	今井町自治会の主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災教室)には積極的に参加しています。銀の鈴主催の行事(流しそうめん、バーベキュー、ちゃんちゃん焼き、音楽会等)へ地域の方を招待する等、相互に招待し合っています。音楽療法は取り入れて10年(銀の鈴含めて)になり、楽しんで参加してもらいながらも口腔機能や身体機能の維持を目標に含め、毎週実施しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と職員が、自治会の行事や清掃活動に積極的に出かけて行くことで銀の鈴2号館の皆様のことを理解してくれている。今年度は、自治会主催の健康教室やケアプラザ主催のイベントの一部に「グループホームってどんなところ？」と題した場を設けることでホームに訪問していただき地域の方々へむけて情報を発信してきました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回実施している運営推進会議では、銀の鈴2号館における活動の実際や、今後の取り組みなどを報告・相談し、検討している。地区センター、自治会、地域資源の情報をアドバイスとして受け取り、サービスに活かしている。終末期ケアなどの事業所の運営に関することへの話し合いも行われ、そこでの意見を活かしながら実践に取り組んできた。	運営推進会議は年間6回実施しています。メンバーは家族会での話し合いの結果輪番制で、銀の鈴、銀の鈴2号館の関係者で、2ホーム合同の運営推進会議として開催しています。地区センター、自治会、地域資源の情報をアドバイスとして受け取り、サービスに活かしています。終末期ケアなどの事業所の運営に関することへの話し合いも行われ、そこでの意見を活かしながら実践に取り組んでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区健康づくり係、福祉局に行く機会を作り相談支援を受けている。また、グループホーム連絡会ブロック会議に参加することで区の高齢福祉担当にホームの状況を伝える機会となった。行政によるサービス（インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者へのおむつの給付など）にかかる手続きを通じて連絡の機会がある。市へは、事故報告書の提出の際に報告や相談、指導を得てサービスに活かすよう取り組んでいる。	区健康づくり係や福祉局に行く機会を作り、相談支援を受けています。また、グループホーム連絡会ブロック会議に参加することで区の高齢福祉担当にホームの状況を伝える機会となりました。行政によるサービス（インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者へのおむつの給付など）にかかる手続きを通じて連絡の機会をもっています。近隣の地域包括支援センター（岩崎ケアプラザ、今井町ケアプラザなど）を訪問し、利用者の紹介を頂く等、協力関係を築いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内に掲示し、研修を行うことで管理者及び全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。生命の擁護のためにやむを得ず一時的に拘束が必要と判断された場合は、家族と十分に話し合う場を設け「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、理解と同意を得た上で職員への正しい理解と認識に努めている。玄関の施錠については家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）。また管理者は施錠を身体拘束の一種ととらえ、施錠に対する弊害も説明している。事故のおそれの低いベランダは常に開錠できるようにして散歩や畑仕事、洗濯干しなど利用者が出入りしたい時は、このベランダから出入りしている。裏庭に面する勝手口には美しい音色のドアベルを付けた。開閉時には音で気が付くようにし解放感がありつつも事故防止には配慮できるように工夫している。	身体拘束の定義をホーム内に掲示し、ホーム内研修や外部研修により管理者及び全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。どうしても必要なケースはご家族の理解を得た上、実施することとし「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成しています。玄関の施錠については、家族会からの申し出により施錠しています。また、その場で管理者は施錠に対する弊害も説明しています。防犯や事故の低い1Fの掃き出しベランダは、常に開錠し、散歩や洗濯干し、その他、利用者が出入りしたい時は、このベランダを利用しています。ベランダの開放で閉塞感はありません。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学ぶために職員研修の機会をもっている（高齢者虐待防止法第2条3項,4項）。日本認知症GH協会からの虐待事例の情報を受けた時や人権週間にはホーム内研修を開催し管理者と全職員で話し合っ振り返り、学びの機会とした。利用者が日常的に何でも話しやすい環境づくりに努めている。また職員のストレス解消にも配慮し、ミーティングの際あるいは日常的に意見や思いを表出できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉士の資格を持つ職員がいることでいつでも権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持つことができる。研修の場も提供している。家族から申し出があった時には、成年後見人制度についての話し合いの機会を設けることができる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約に関する説明と納得が得られるよう、運営規定・契約書・重要事項の説明をしつつ、家族等の不安や疑問点を尋ねている。入居の際には再度意思の確認をすることで、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見・要望は、日常的に職員に表せるような関係づくりに配慮し、運営に反映させている。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し暮らしの様子を伝えるなかで、意見や要望を表せるように努め、意向はその言葉のまま記録して共有できるようにしている。家族会や運営推進会議にて、運営についての意見や苦情を述べる機会を作っている。「意見箱」を作り、無記名で受け付けをしている。外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をしそれらには迅速に対応し運営に反映させている。	利用者の意見、要望は日頃のケアの中から吸い上げ、アンケートも取っています。ご家族の意見、要望は、家族会、運営推進委員及び来訪時の面談から吸い上げています。面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し、暮らしぶり、変化を伝え、家族の意向を記録しています。また意見、要望を言えるよう、意見箱を設置し、外部の苦情受付窓口を玄関に掲示しています。苦情等には迅速に対応し、運営に反映させています。家族会や運営推進会議においても、運営について意見や苦情を述べる機会を作っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設けるため、ミーティングを適宜開催している。今では職員から主体的にミーティングが計画されてきている（今年度は、就業規則の改正：65歳定年制を実施した）。また定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を充分に聞くことにより職員の働く意欲の向上やさらには介護の質の確保につながるよう努めている。報告や相談は24時間いつでも受け取る体制をとっている。	職員の意見は、原則的にミーティングで聞き反映するようにしています。今では職員から主体的にミーティングが計画されてきています。また定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を充分に聞くことにより職員の働く意欲の向上やさらには介護の質の確保につながるよう努めています。職員の管理者への報告や相談は24時間受け付けています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況を把握できるようにしており職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。相談がある時はいつでも連絡が付くようにしている。管理者は忌引き等のやむを得ない勤怠に対しては、現場に欠員をつくらないように職員配置に全力で努めている。休憩室にはマッサージ器、コーヒー、ポットを設置して一息つける環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験対策の勉強会をホーム内でも開催するなど、働きながら資格を取得できる機会の確保に努めている。職員一人ひとり、現場で活躍しているからこそ、実践と理論を結び付けた介護を行うことができるよう研修・勉強することが大切であると考えている。年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流を大切にしている。相互訪問等の活動を通じて、情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度は、見学研修（職員相互研修）を実施、管理者はグループホーム連絡会ブロック会議に参加。他のグループホームの管理者と交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困りごと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。午後のお茶の時間帯に面談を実施することで、くつろげる雰囲気作りに配慮し本人が気持ちを表現しやすいように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内を見学していただくことで家族自身がホーム内の雰囲気を実感していただけるよう配慮している。家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら関係づくりができるよう努めている。行事やお楽しみ会への参加を通じて、家族同士が話し合える機会を持つことができるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点より状況や意向を聴き把握することでアセスメントと課題の抽出を実施している。健康上の課題、経済的な課題など多様な生活上の課題を一緒に話し合う中で「その時」必要としている支援を見極めて他のサービス利用も含めた対応が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にとって利用者は人生の先輩であり、教わることが多々ある。利用者も職員も皆が毎日の暮らしの中で力を発揮して協力し合うことで、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いているよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、職員は家族と日常的な報告や相談を通してよく話し合い状況を共有できるよう努め、家族と協力できるような関係を築いている。利用者と家族のきずなを尊重できるよう家族の繋がりを大切に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が地域の中で自分らしく暮らせるように、馴染みの人との面会、外出、外泊、通信に制限を設けてはいない。例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなど。ご家族や地域の方々との協力し、利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努めることで、銀の鈴2号館での暮らしに安心を得られるように支援している。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリがつき不安が解消されている。	利用者が穏やかに暮らせるように、馴染みの人との面会、外出、外泊、通信に制限を設けていません。来訪は比較的多く、外出、外泊も自由に行っています。例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなどです。ご家族や地域の方々との協力し、利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努めることで、銀の鈴2号館での暮らしに安心を得られるように支援しています。本人の行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にもメリハリがつき不安が解消されています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関われる雰囲気を大切にしている。職員のさりげない気遣いで一人ひとりが孤立しない支援に努めている。一緒に家事全般をするなかで連帯感や、お互いへの感謝の気持ちが生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族や本人との関係を大切にしている。家族との連絡・相談支援も必要に応じて行っている。今年度では、入院治療が必要なため契約が終了するもその後も家族と経過を共有してきたことで病状回復により再度契約に結び付いた事例がある。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常に利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。日々の暮らしの中でのことばや表情を汲み取っている。そのことを記録し会議によって職員は情報を共有している。ケアプランを立案する前には家族との面談によって思いを聴くことで、利用者・家族の暮らしへの要望・意向を受けとりいつでも本人本位になるように検討している。	各職員は、常にご利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めています。また、日々の暮らしの中での表情を汲みとりに努め、個人カルテに記入し、職員で共有し、活用しています。把握が困難な場合は、本人の基本情報やアセスメントに照らし合わせ、ケアカンファレンスなどにより、本人本位に検討し、実施に努めています。ケアプランを立案する前に家族と面談し、利用者や家族の暮らしへの要望・意向を受けとめています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や暮らし方、生活環境を聞き取り、これまでの経過や暮らしの把握に努めている。個別の基本情報とアセスメント表を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人カルテへの記録、必要時には焦点をあてて情報を集めて記録することで心身の状態についての現状把握に努めている。今までの暮らしで培ってきた力を発揮できて達成感や居心地の良さを確保できるためにも現状と変化を捉えることで個別性の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、訪問医療の医師、看護師職員、介護職員らが、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し現状に即した介護計画を作成している。利用者や家族の意向・要望を受け取って、本人らしく暮らせるようにチームで取り組んでいる。介護計画に基づいて実践された支援の経過や結果は日々の記録に残し、チームで共有できるようにしている。	介護計画等については、ケアマネ協会の方式を採用し、家族・訪問医療の医師・訪問看護の看護師・看護師職員・介護職員等で話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成しています。利用者や家族の意向・要望を受け取って、本人らしく暮らせるようにチームで取り組んでいます。介護計画に基づいて実践された支援の経過や結果は、日々の記録に残し、チームで共有できるようにしています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートから実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉士や栄養士、保健師の資格を有する職員が在籍しているため、本人や家族の状況、その時々生まれる個別のニーズに対応できるように努めている。協力医療機関、訪問看護ステーションや薬局などと相談・連絡を行うことで、IVHの点滴管理、看取り、糖尿病の自己注射見守りや食事指導などに対応し、また福祉・障害に関する相談支援などに対応できるよう取り組んでいる。必要時には地域包括支援センター、区役所、市役所などの関係機関とともに取り組むことができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター、自治会などから行事やお楽しみ会を実施する際には備品や会場、駐車場を借用している。社会福祉協議会から車椅子を借りて利用者が家族と外泊するなど、社会資源を把握し活用することで安全で豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。大型バスでドイツニーランドに出かけた時には自治会の敷地を借りて安全にバスに乗り込むことが出来た。自治会長が利用者の体調を気にかけて声をかけてくれながら見送ってくださった。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望によって馴染みの受診先での医療を受けることができる。その場合は家族を介して情報交換を確実にしている。ホームでは、月2回の内科一般、週1回の歯科医の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援している。また医師及び医療機関と本人及び家族との間の橋渡しとしての支援も行っている。週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。	利用者のご家族の希望により、馴染みの受診先での医療を受けることができます。往診は内科月2回、歯科は口腔ケアを兼ねて週1回の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援しています。かかりつけ医の通院の場合は、家族を介して情報交換を確実にしています。また、週1回鍼灸師の往診があり、希望者が受診しています。看護職員が月に4回健康管理を実施し、ご家族に対し定期的な報告を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が月に4回健康管理を行うことで利用者の体調の把握をしている。そして日常の関わりの中でケア方法や観察方法を職員にアドバイスしている。健康管理記録は家族に定期的に発送し報告している。介護職員は個々の利用者の情報や気づきを日常的に看護職員と共有することで適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはこまめに面会し家族と経過を共有し相談支援をすることで安心できるように努めている。入院中はリハビリや食事の経過を知るために訪問し、その機会に病院関係者との情報交換・相談をすることで退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。病院関係者とご家族が面談を行う時には同意を得てホーム職員が同席することで病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。職員の力を総合的に判断しながら事業所でできることを説明し、その都度、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいる。医師により終末期との診断があれば利用者や家族の意向を受け取りながらかかりつけ医、訪問看護師と家族と職員が協力して終末期介護計画を作成し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んだ。	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面（重度化に係る指針の同意書）の提出を受けています。同意書がある場合、ご家族の希望に沿い、医療関係者と職員が協力し、統一した意見の下でチームとしての支援に取り組んでいます。利用者、家族の意向をその都度汲みとり、また職員の力を総合的に判断しながら事業所でできることを説明し、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいます。訪問医は看取りの経験、緩和ケアの知識が豊富であり、看取りの可否も判断して頂いています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で「事故防止の基本と危機意識」について全職員が学んでいる。誤飲、転倒など色々な急変や事故発生場面を想定し、マニュアル作成と訓練を行いホーム内研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の協力を得て行っている年に2回の避難訓練では、避難方法を身につけるとともに、消火訓練、通報訓練を実施し、職員と利用者は防災用品の使用方も身につけている。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄をし備蓄場所は地域の方の提供場所を含め数箇所に分散している。備蓄品は定期的に点検を行っている。平成24年に建物オーナーが井戸を掘ってくださったことで非常時の水の確保ができています。浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしている。	年2回、避難訓練を実施し、近隣の協力を得、避難方法を身につけると共に、消火訓練、通報訓練を実施しています。職員と利用者は防災用品の使用方も身につけています。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄を行ない、備蓄場所は地域の方の提供場所を含め、数箇所に分散しています。備蓄品は定期的に点検を行っています。平成24年に建物オーナーが井戸を掘って頂いたことで非常時の水の確保ができ、浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしているそうです。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常に利用者の人格を尊重した支援を実践できるように努めている。呼称は様付けでお呼びし敬語を使用している。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保を徹底するように話し合っている。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一している。個人情報の保護についてはホーム内研修、外部講習会で学んでいる。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮し、書類の保管は書類保管庫に必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。日々の記録を置いてある書庫にも簡易施錠を設置してある。	法人理念の一つに「その人らしい生き方と尊厳を守る」に基づき、常に利用者の人格を尊重した支援を実践できるように努めています。人格の尊重とプライバシーの確保は運営方針として重点的に取り上げています。敬語・呼称についてや、個人情報の取り扱い、プライバシーの確保・守秘を、常に職員に徹底・定着を図っています。記録等個人情報の取り扱いには、十分に配慮し、個人情報は2階多目的ホールの書類保管庫に施錠をして保管し、守秘の徹底に努めています。トイレは各居室に設置され、プライバシーが確保されています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い出しでの食材の選定や、今日の献立、入浴の希望、外出時の洋服の選定など日常生活の中で自己決定の機会を設け希望を表出できるように働きかけている。自分の誕生日会での食事の内容を決めたり、家族との電話の希望なども表出できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針である「一人ひとりの息遣い・呼吸に合わせた介護支援」の実践に日々努めている。職員の都合による業務を優先することなく、起床時間や食事の時間、休息、入浴、散歩など、一人ひとりのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合った服を着ていただいている。これまでの習慣を大切にし、自宅から持参した化粧品を日常的に使用しておしゃれを楽しむこともできている。月一回、理容師の訪問があり毛染めやパーマなどの希望に沿ったおしゃれを支援している。自己決定を表出することが困難な利用者には、これまでの生活歴や家族からの情報を参考にその人らしい身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が職員と一緒にその日の献立を考えて食事作りや片づけを行うことは、利用者の有する力を活かしてこれまでの暮らしを継続するためにも大切な支援であると捉え日々実践している。食材の買い出しにも一緒に行き、旬の食材、嗜好品を購入し食事が楽しみなものになるように支援している。自宅から使い慣れた茶碗、湯飲み、箸など持参している。職員も一緒に楽しく食べるようにしており介助する一方ではない。庭で育てた野菜や、地域の畑で作った旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。	利用者の有する力を活かすために、職員と一緒にその日の献立を考え、食事作りや片づけを行い、これまでの暮らしを継続するためにも大切な支援であると捉え、日々実践しています。食材の買い物は、職員と利用者が一緒に行き、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみなものになるよう支援しています。食事は職員も同じ食卓と一緒に楽しく食事を行ない、介助する一方ではないようにしています。利用者が庭で作った作物や、地域の方から旬の野菜や果物を頂き、食卓に取り入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは、一人ひとりの食べられる量を勘案しながら食材の組み合わせによる栄養バランスを考えている。必要に応じて水分摂取量を記録して1日を通して必要量を確保できるように支援している。カロリー制限や疾病のあるご利用者には、医師や看護師の指示を受け、栄養士の職員から個別にアドバイスを受けている。職員の誰もがカロリー目安を立てられるようにカロリー換算表を作成するなど工夫している。個別の状況を内科医、歯科医師らと共有して、一人ひとりの歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、消化力、活動性など総合的にとらえて食材や食形態を選択し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医による口腔ケアを実施している。職員は歯科医師または歯科衛生士に一人ひとりの口腔状態について説明とアドバイスを受けている。毎食後は習慣に基づいた歯磨きができるように支援をし、利用者によっては職員が磨き残しの確認やフォローを行っている。義歯は毎夕食後に、入れ歯用のつけ置き洗浄剤を使用することで清潔を保持している。		
		排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄状況、パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの排泄を促すことでオムツの使用量を減らす努力をしている。居室にトイレを設置することで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立っている。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄状況、パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を促し、オムツの使用量を減らす努力をしています。居室にはトイレが設備され、プライバシー保護に役立つと共に、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になり、また、気兼ねなく、気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立っています。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に自立に向けた支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンク、ヨーグルトドリンクを飲むことで便秘の予防に取り組んでいる。また、気分転換と全身運動とを兼ねて散歩に出かけたり体操をして体を動かす工夫をしている。個別の排便パターンを把握したり、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワー、夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用するなどして安全面に配慮することで安心できるように配慮している。同性の介助を希望される方にはその要望を汲み取り同性介助を実施し、羞恥心に配慮している。	可能な限り、本人の意向に沿った方法（湯船や夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮しています。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを使用し、冬場は入浴剤を入れるなど、入浴を楽しめるように工夫しています。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用する等、安全面に配慮し、利用者が安心できるように配慮しています。また半身浴、足浴、同性の介助など、本人の要望を汲み取り実施しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体力や活気などの様子を捉えることで適宜、ひと休みできるように支援している。就寝時間については、本人の生活習慣や体調に合わせた希望の時間に休むことができるようにしている。日光浴や買い物、散歩など日中に適度に体を動かすことで夜間の安眠に繋がれるよう工夫している。更に気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベッド周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬は、効能書きを個別にファイルして管理し、職員は薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるように努めている。特に医師の指示で薬が変わった時には、家族とも情報を共有し職員間での申し送りを確実にしている。職員は症状の変化の確認に努め、医師や薬剤師に相談できる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や有する力を活かして、家事全般や庭仕事などの役割の支援を行っている。耕作、野菜の収穫、音楽療法、動物の世話（抱く、散歩）など行っている。また、お花見や各種行事（運動会や演奏会や食事会）は楽しみごと、気分転換になっている。思い出を写真に残し掲示することで後々も思い出すことができ日々の張り合いにつながられている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援に努めている。散歩、戸外で日光浴、職員と食材の買い物、昔馴染みの土地への外出、家族との温泉旅行、ドライブ、お墓参りなどに出かけている。家族や地域の人々と相談・協力し合って、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践している。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出されている（例えば、毎年見に行くチューリップ畑、ディズニールンド、お誕生日の夕食など）	個々の希望に沿って出かけられるよう支援に努めています。散歩に出かける方、戸外で日光浴をする方、職員と買い物に出かける方、家事の手伝いにかかる方、家族との温泉旅行での外泊、ドライブ、法事での地方のお墓参り等、利用者本位の支援を行っています。家族や地域の人々と相談及び協力し合って、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践しています。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出しています。例えば、毎年見に行くチューリップ畑、ディズニールンド、お誕生日の夕食等、普段は行けない様な場所にも協力体制により実現しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則的には、必要なものを持参され、また必要となった品は家族が持参される。（お金を所持することは家族の意向にもよる。）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話の他に、ご家族にのみ番号を開示している携帯電話を設置し、いつでもご家族からの電話を取り次ぐことができる。また、利用者からの申し出があれば、自由に使用できるよう支援している。絵手紙や年賀状などが届いたらやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える庭は、利用者とともに土を耕すところから行い季節の野菜や花木を育てている。室内にも観葉植物などを常に飾って皆で楽しんでいる。また、特注の門松、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供えなど季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。ホーム内の飾りつけは家庭的な雰囲気づくりに努めている。お楽しみ会・お誕生会などの写真が貼ってあることで、思い出の共有と空間認識ができてよいとの意見も外部から頂戴した。共用空間は絶えず清潔を心がけ、利用者とともに毎日掃除を徹底している。更に清掃専門業者に年間2回の清掃を依頼している。24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気・湿度の管理に配慮し、居心地よく過ごせる工夫している。	リビングは、掃き出しの窓になっており、四季の風物を堪能できるようになっています。季節の切花、植木、観葉植物を常に飾り、心地良い空間を演出しています。また、特注の門松、正月飾り、雛人形、節句人形、お月見のお供え等、季節の風習を取り入れ、季節感を味わっています。共用空間には、行事・お楽しみ会・お誕生会等の写真が貼られ、楽しみと空間認識が出来て良い、との意見が出ました。共用空間は常に清潔に心がけ、毎日掃除がされ、衛生的且つ、快適な空間を提供しています。業務上生じる不快な音は極力排除するよう配慮し、24時間空気清浄機を稼働し、温度・換気の管理を徹底しています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で過ごせるよう自由にテーブル、椅子を配置している。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、音楽を聴きたい方それぞれに居場所を確保できるようにしている。音楽療法などサービスに応じて席も自由に移動している。また廊下にもソファや椅子を置き、座って語らえるようにあるいは1人でもくつろげるようにしている。2階のベランダや多目的室も活用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、本人と家族が思い思いに家具の配置やコーディネートを行っており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。居室にCDラジカセを持参してのんびりとクラシックやハワイアンなどを聴くことを楽しみにしている利用者もいる。	本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参してもらい、個々に家具の配置やコーディネートを行い、本人が居室で心地よく過ごせるよう配慮しています。仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真等、自宅使用の馴染みのものを思い思いに持参しています。居室にCDラジカセを持参し、のんびりとクラシックやハワイアンなどを聴くことを楽しみにしている利用者も居ます。居室にはトイレが設備されています。居室ドアの前には、表札、家族と本人の思い出の写真を掲示する等、本人が「分かること」を活かす工夫がされています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの前には表札、家族と本人の思い出の写真を掲示するなど「分かること」を活かす工夫をしている。入浴では浴槽に入る時に、回転シャワーチェアや滑り止めマットを使用して、安全・安楽に入浴できる支援をしている。 居室に畳を敷いたことで、安全にベッドから移動できるように工夫した。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
銀の鈴 2 号館

作成日

平成26年2月1日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	活動の予定や計画を、より共有しやすくする。	その月のスケジュールを開示することで、家族や本人の暮らしの計画を立てやすくなる。	いつでも家族・本人が自分から予定を確認できるように、スケジュール板の掲示を継続。	1年間
2	2・4	実践を通じて積み上げてきた経験を地域の人々に向けて活かす。	地域支援としての活動計画を立てる。	年間行事予定に地域との関わりや地域支援の為に欄を設ける。	1年間
3	19	日々の生活の様子をわかりやすい方法で伝える	日々の生活の様子を分かりやすい方法で報告・開示することで、家族と共に活動を振り返る事が出来る。	館内掲示用の写真入りの新聞「2号館たより」を年に4回発行する	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。